

令和3年度第4回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和3年11月17日（水） 9：30～10：30
2. 場 所：県地場産業振興センター本館3階 第4研修室
3. 出席状況：委員9名
4. 議 題：（1）「いしかわ森林環境基金事業の取組成果と今後の方向性（中間とりまとめ）」に関する意見募集（パブリックコメント）の結果について
（2）「いしかわ森林環境基金事業の取組成果と今後の方向性（最終とりまとめ（案））」について

5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）

【委員】 竹林や緩衝帯の整備について、新聞や市町の広報誌等も活用し情報発信をお願いしたい。

【事務局】 これまでも県民への周知をしっかりと行う必要があるというご意見をいただきしており、引き続き事業の周知に努めてまいりたい。

【委員】 林業座談会で高齢の森林所有者から跡継ぎ世代が山を継ぎたがらない、という話をよく聞く。先日、保育所に県産材のおもちゃを贈呈したところ、子ども達にもものすごく興味を持って遊んでもらえた。小さい頃からいろいろな形で、木に触れ、森林の大切さなどを理解してもらい取組みを進めていきたいと考えるが、引き続き県の注力もお願いしたい。

【事務局】 身近な生活の中で木に触れ、県産材利用の意義について理解の醸成が図られるよう、報告書に基づき県産材利用の推進や木育の充実などに取り組んでまいりたい。

【委員】 子ども達にとって自然の中で体験する教育は非常に重要であり、子ども達が自然や木への興味・関心を持てるよう、小さい頃からそういう取組みを継続的に行っていくのがよい。

【事務局】 県内でのいろいろな取組みを通じて森林への理解が深まるよう、できる限りの支援や活動を進めてまいりたい。

【委員長】 最終とりまとめ（案）について、特に修正が必要との意見はなく、委員会として承認。

(委員会としての総括)

- ・基金事業により、森林の公益的機能の維持増進が図られているほか、森林に対する県民の理解増進と県民参加の森づくりも着実に進展していることについて、高く評価。
- ・近年のクマの大量出没等や豪雨の増加を踏まえ、人身被害を防ぐための緩衝帯整備の強化や、山腹崩壊や洪水の発生を防ぐための集落周辺等の放置竹林の除去の加速化などの課題にも対応していく必要。
- ・委員会として、事業規模も踏まえた上で、現状の税率を維持しつつ、これらの課題を解決するために、いしかわ森林環境税を継続し、森林の公益的機能の維持増進に資する取組を進めていくべきとし、報告書を県に提出。